

パブリックコメントに係る意見及び対応方針

【案件名】「第二次いわき市都市計画マスタープラン（素案）」及び「いわき市立地適正化計画（素案）」について

部課等名：都市建設部 都市計画課

No.	市民意見の内容	意見に対する市の考え方
1	<p>少子高齢化・人口減少が進む中で、市単独でなく、民間を巻き込んで、アリオス等の事例をモデルとして、都市計画を実現させて頂きたいです。</p> <p>【勿来地区の副都心化を】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植田駅に特急列車の停車、駅舎を再開発、勿来支所を植田地区へ移転、最新情報・技術の発信拠点に。 ・ 居酒屋・飲食店、娯楽施設の精選・再整備、映画館の再開(TOHOシネマズ) ・ いわきFCスタジアムを鮫川河川敷に誘致、常磐共同火力で次世代エネルギー等の還元・活用発信を担う「エネルギーパーク」を、植田公民館・子ども元気センターと統合・再編し、官民複合化施設として建設する。 ・ 金山、小浜地区に総合商工業施設を建設、岩間町復興拠点を中心に防災エネルギータウンへ。 ・ 学校施設と社会教育・体育文化施設の複合化、学校規模適正化を踏まえ学区の再整備を。 ・ 勿来の関と周辺施設の複合化、道の駅建設による町の整備 小名浜道路建設に伴う周辺地域の整備・生活インフラの発展へ。市内各地に活力を。 ・ 旧平城再生に伴う城下町の整備。 ・ 好間地区は好間工業団地を生かし、広域拠点に組み込む。 ・ 小名浜駅の復活、臨海鉄道と常磐線・上野東京ラインとの円滑な接続・旅客輸送により、関東圏からの誘客促進を図る。 ・ バッテリーバレー・各工業団地を軸とした「インダストリアルシティ」構想。 ・ 各地区に救急対応医療機関の設置・労災病院と医療センターの相互連携で土曜診察を願います。 ・ 山間地・郊外地を中心にヤギによる除草を。 ・ 市内各地で気候に応じたフルーツベルト構築。 ・ 地域生活拠点を市外近隣地区との交流拠点とし、「道の駅」「駅周辺商工業施設」「活性化センター」を拠点、周辺施設と複合化し、交流人口、定住人口増加を図る。 ・ 日常生活、観光に優しい交通インフラの再整備。安全・安心の交通環境づくりを。 ・ 一つのリゾートに偏らず、既存の観光資源を再編・発展し、観光シーズンには「迎えるいわき」の準備を。 ・ いわき若者会議を中心とした官民連携教育により、若者の学び、活躍を発信・還元出来る環境づくりを。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少や超高齢社会が急速に進行する中においては、経済・財政は縮小し、限られた財政状況下においても持続可能な都市運営を実現するため、民間事業者が有するノウハウを活用した都市づくりが重要であると認識しております。なお、「いわき市立地適正化計画（素案）」においても、民間事業者と連携した誘導施設の誘導施策を展開することとしておりますので、具現化に向けた取り組みを推進して参りたいと考えております。 ● 勿来地区におきましては、「第二次いわき市都市計画マスタープラン（素案）」において、都心拠次に次ぐ「広域拠点」に位置付けており、担うべき都市機能を「工業、エネルギー供給、商業・業務機能、歴史・文化、観光レクリエーション機能等」としているところであり、ご意見にあるような公共施設の統合・再編やエネルギーの拠点としてのまちづくりなど、本市の南の玄関口に相応しい都市づくりを進めて参りたいと考えております。 また、勿来地区以外に係る小名浜臨海鉄道の旅客化などのご意見につきましては、「第二次いわき市都市計画マスタープラン（素案）」における部門別構想や地域別構想において方針として記載しておりますが、明記していない意見につきましても、庁内において情報共有を図るなどしながら、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。
2	<p>40年後には、人口が半減する予測になっています。人口が半減してしまうと今のような広域の社会資本を維持するのが大変になる。だから人口を集積してコンパクトな街を作らざるおえない。利便性の高い駅周辺の住居の高度化がコンパクトシティには効果があるでしょう。現在の駅周辺の商業地域の用途とは別に、容積率も大幅に緩和して住居高度利用地域を創設した方が良いかもしれません。再開発で住居高度利用地域に用途を変更する方法もあると思います。その他、高齢者サービス付き住居を整備し郊外などから駅前に移転する場合は、住宅の取得税を減免する事も考えられます。例えば、2000万円の消費税10%分で200万円を減免する。郊外の住宅を中古物件として売却して、駅前に住み替える事になりますから、売却して得た所得分も減免すると、なお住み替えが促進されると思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「いわき市立地適正化計画（素案）」ではサービス付高齢者向け住宅など、当該計画に位置付けた誘導施設の誘導に際し、容積率の緩和やまちなか居住区域における共同住宅の容積率の緩和や定住促進施策等を展開し、本市の解決を図るべき課題の解決に向けた、各種施策を講じる方針としております。今後の人口減少下においても持続可能な都市運営の実現を図るため鋭意取り組んで参りたいと考えております。 ● その他いただいたご意見については、庁内において情報共有を図るなどしながら、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 空いている店舗や住宅をできるだけ安く貸せる体制を作り、若い人が起業しやすい環境を整えたらどうかと思う。そうすれば、市外、県外からの若者移住者も増え、シャッター街が減り、街に活気が生まれ、「おしゃれで面白い街」に観光客も足を運ぶのではないのでしょうか。特に湯本駅前のアパートや商店街をぜひ活用してほしいです。 ○ 湯本駅前にある「御幸山公園」を整え、子供からお年寄りまで楽しめる公園にしてほしいです。せっかく駅前にあり、桜もきれいに咲くの、ほとんど活用されない今の状態がとても残念です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家や空き店舗等の活用については、今後の人口並びに世帯数の減少に合わせて生じる課題であると捉えているところであり、「第二次いわき市都市計画マスタープラン（素案）」における都市づくりの課題におきましても、「市街地の空洞化抑制」は重要な課題の一つとして記載しております。 また、このことについて、現在市では、商店街での創業しやすい環境を整えることを目的に、新規創業等に対し施設整備に係る事業費の一部を補助する「リノベーションまちづくり支援事業」の取り組みを進めているところであり、今後もこうした既存ストックを活用した賑わい再生に向けて取り組んで参りたいと考えております。 ● 御幸山公園については、地域の意見を踏まえながら市民参加による適切な維持管理ならびに魅力向上に努めて参りたいと考えております。

パブリックコメントに係る意見及び対応方針

【案件名】「第二次いわき市都市計画マスタープラン（素案）」及び「いわき市立地適正化計画（素案）」について

部課等名：都市建設部 都市計画課

No.	市民意見の内容	意見に対する市の考え方
4	<p>○ 第二次都市計画マスタープランについては、社会情勢の変化をしっかりと捉えており、各拠点の位置付けも含めて、いわき市の地形などを考慮した大変良い将来都市構造を描いていると感じました。ネットワークの部分に力をいれながら、今後20年取り組んでいただきたいと思えます。</p> <p>立地適正化計画については、今後の急速な人口減少や超高齢社会の到来を踏まえ、市内各拠点に誘導区域を設定されており、いわき市のより具体的な将来構想が見えてきたと感じたところです。</p> <p>一方、日本では超高齢社会が負であるイメージをもつ方も多いですが、今後各先進国では、「人生100年時代」があたりまえのように到来することから、今後20年は多様な世代・多様な価値観が共存できる社会の構築も重要であると感じています。よって、当該計画の施策の中では、そういった福祉環境の整備等のもも見えてくると、より良い計画になるのではないかと感じました。</p> <p>○ 誘導施設では、ホテルや旅館を位置付けしておりますが、市内には、高級かつ良質なサービスを提供する形態のホテルや旅館が少ないように感じます。今後も増加していく訪日外国人に少しでもいわき市に来てもらうためには、こういったホテルや旅館が必ず必要になってくることから、特に、いわき駅前や湯本駅前、小名浜などには、立地を誘導するような施策が必要だと感じたところです。</p> <p>○ 鉄道駅やバス停を中心とするまちづくりを行って頂きたいと思えます。公共交通なんですから、JRや常磐交通に委ねないで、もっと市が介入して利便性を高める政策を行って欲しいです。いわき市民はマイカー天国なんて言われますが、それは鉄道やバスの利便性が低い結果です。また、「いわき市の人は鉄道やバスを乗らないから何をやっても無駄」だと考えているのであれば、そういった考えは改めて欲しい。</p>	<p>● 「いわき市立地適正化計画（素案）」では、若い世代のみならず中高年や高齢者にとっても暮らしやすい都市の実現を図ることを方針としており、このことから、高齢福祉に関する機能を都市機能誘導区域内に誘導を図る施設として各拠点に位置付けているところであります。</p> <p>● ホテルや旅館などの誘導施設については、「いわき市立地適正化計画（素案）」における誘導施策として、容積率緩和や施設整備費等の費用の一部支援などに取り組むこととしているところであり、いわき駅前や湯本駅前、小名浜などの都市機能誘導区域への立地を誘導して参りたいと考えております。</p> <p>● 「いわき市立地適正化計画（素案）」においては、鉄道駅や運行本数の多いバス停を中心に、居住の誘導を図る「まちなか居住区域」を設定しているところであり、今後は「まちなか居住区域」内や区域間等の公共交通を中心に利便性の向上を図るとともに、効率的な都市活動が可能となる圏域を増やしていくこと等を当該計画における誘導方針に明記したところであります。そのため、これまで以上に、交通事業者との連携を図りながら利便性の高いネットワークを構築して参りたいと考えております。</p>
5	<p>○ ネットワーク型コンパクトシティを目指すとはありますが、ネットワークの強化を図っていただきたい。特に、市内拠点や駅、幹線道路を循環するような系統をつくり、本数を多くし、鉄道乗換なども容易にする施策などを展開してはどうでしょうか。いわき市の場合、バス利用者の多くは学生でしょうから、その利用者の目的地に合せた系統とせざる得ない面があるのも分かりますが、そこだけに特化しては効率的な都市の移動手段として確立することは困難に思えます。</p> <p>また、人口減少の中、利用者が少ない系統を永遠に維持することは、いくらお金があっても無理だと思います。別の交通手段へシフトするなど、大きな視点での見直しが必要ではないでしょうか。</p> <p>バス事業者だけでは当然難しい面もあるかと思えます。行政と事業者、市民、みんなで考えていくことが必要だと思います。</p> <p>○ 震災からの復興に伴い道路や箱モノが増加し、さらに公共施設の建替えなども控えている中で、今後も進む人口減少や高齢化にあっては、何も対策を講じなければ、どんどん若い世代への財政負担が増加するという問題が、立地適正化計画でも指摘されています。我々のような大人は、ある意味恵まれた施設環境の中で、生活してきた・している、このような社会をつくってきたという自覚をもたなければならないと感じました。</p> <p>行政においても、地域と話し合いながら政策を進めていこうとすると、いろいろと難しい問題に直面することもあるかもしれません。誘導施策の方針に「人口減少に合せた公共施設の統合・集約化」などの記載があります。ぜひ、計画をつくるときだけでなく、実際に何か公共施設の統廃合など、モノをつくる場合においても、その先への負担に視点を置き、話し合いに若い世代（その方の子供が利用者にもなります）も交えるなど、その時のワガママにならないように進めて欲しいと思えます。</p>	<p>● ネットワークの強化や他の交通手段へシフトすること等については、人口減少や超高齢社会が急速に進行する中において非常に重要であると認識しており、鉄道や各路線バスの利用状況などを検証しながら、多くの市民等が効率的な都市活動を展開できるよう、今後の自動運転の実装など新たな技術導入も視野に入れつつ、交通事業者等との連携を図りながら取り組んで参りたいと考えております。</p> <p>● 公共施設の統合・集約化については、将来の人口予測を行った上で各関係機関や関連計画、さらには地域と連携を図りながら検討を進めていくとともに、まちづくりの視点を取り入れつつ、今後の限られた財政状況を踏まえ、施設の適正規模・配置に十分留意しつつ取り組んで参りたいと考えております。</p>